

# 会 議 録

会議の名称	令和4年度 第3回清瀬市高齢者保健福祉計画（介護保険事業計画）評価策定委員会																
開催日時	令和5年3月29日（火） 14：00～15：30																
開催場所	清瀬市役所4階研修室1・2																
出席者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">浅見 良子</td> <td style="width: 50%;">江藤 勝利</td> </tr> <tr> <td>遠藤 志のぶ</td> <td>大島 千帆</td> </tr> <tr> <td>小川 和夫</td> <td>國眼 眞理子</td> </tr> <tr> <td>小滝 一幸</td> <td>島田 尚範</td> </tr> <tr> <td>下垣 光</td> <td>田代 文子</td> </tr> <tr> <td>富田 幸子</td> <td>中島 美知子</td> </tr> <tr> <td>星野 孝彦</td> <td>前川 政美</td> </tr> <tr> <td>望月 正敏</td> <td>山本 清子</td> </tr> </table>	浅見 良子	江藤 勝利	遠藤 志のぶ	大島 千帆	小川 和夫	國眼 眞理子	小滝 一幸	島田 尚範	下垣 光	田代 文子	富田 幸子	中島 美知子	星野 孝彦	前川 政美	望月 正敏	山本 清子
浅見 良子	江藤 勝利																
遠藤 志のぶ	大島 千帆																
小川 和夫	國眼 眞理子																
小滝 一幸	島田 尚範																
下垣 光	田代 文子																
富田 幸子	中島 美知子																
星野 孝彦	前川 政美																
望月 正敏	山本 清子																
欠席者	なし																
次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 事務局からの説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録の公開について</li> </ul> </li> <li>3 議題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画策定にかかるアンケート調査報告書について</li> </ul> </li> <li>4 事務局からの連絡事項</li> <li>5 閉会</li> </ol>																
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次第</li> <li>2 清瀬市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画策定に向けた調査—報告書概要—</li> <li>3 清瀬市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画策定に向けた調査報告書</li> </ol>																
<b>次第</b> 1. 開会	<p><b>【事務局】</b></p> <p>それでは定刻となりましたので、ただいまより、令和4年度第3回清瀬市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画評価策定委員会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、ご多用のおり、本会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、現体制になって初めてご参集いただいたの開催となります。進行に対して至らない点があるかと思いますが、ご容赦願います。</p> <p>それでは議題に沿って議事を進行させていただきます。</p> <p>「次第1 開会の挨拶」を委員長にお願いします。</p>																

	<p><b>【委員長】</b></p> <p>皆さんこんにちは。この委員会での委員長を仰せつかっております。いよいよ今日の議題にありますように次の高齢者計画に向けてのことが動き出していて、どんな計画をたてて、どんな実践をしていけばいいのか、今回の調査を通して、考えていくことになるかと思えます。お気づきの点があれば、皆さんに意見を出していただき、実際上の計画のほうに反映させていければと思っております。今日はよろしくお願いいたします。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>ありがとうございます。つづきまして、本日の会議の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>先日、事務局より送付いたしました資料はお手元にありますでしょうか。まず、本日の次第でございます。次に、アンケート調査報告書でございます。それともう一点送付したのものには、第2回の議事録もございまして、それ自体は本日の議事には使用いたしません。</p> <p>お手元のない資料はございますでしょうか。よろしいでしょうか。</p>
<p>次第</p> <p>2. 事務局からの説明・議事録の公開について</p>	<p><b>【事務局】</b></p> <p>つづきまして、次第の2番、事務局からの説明でございます。</p> <p>会議録の公開について、先日皆様へ前回の会議の会議録を送付させていただきました。会議録についてお気づきの点等がございましたら、本会議の終了までに事務局にお知らせいただければと思えます。訂正箇所等があれば、修正をした後に市のホームページにて公開させていただきたいと思えます。</p> <p>事務局からの説明は以上でございます。</p>
<p>次第</p> <p>3. 高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画策定にかかるアンケート調査報告書について</p>	<p><b>【事務局】</b></p> <p>つづきまして、次第の3番、本日の議題の進行は、委員長にお願いしたいと存じます。委員長よろしくお願いいたします。</p> <p><b>【委員長】</b></p> <p>高齢者福祉計画第9期介護保険事業計画に係るアンケート調査の結果報告ということになります。お手元の報告書と、今日それをピックアップした報告書概要があるので、2つの資料を使いながら、3つの調査、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と9ページからの在宅介護実態調査と、介護事業所の調査は15ページから、おそらく概要を使いながらになるとは思いますが、本体も見ながらご報告いただければと思えます。よろしくお願いいたします。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>生涯健康部介護保険課長でございます。よろしくお願いいたします。私のほうから清瀬市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画策定に向けた調査報告書案についてご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。</p> <p>なお、第1章調査の枠組みまでは先日送付いたしました報告書案に沿って説明させていただきます。第2章以降の各調査の結果につきましては、本日記</p>

布いたしました概要版にて説明させていただきたいと思ひます。

それではまず始めに、先日送付をいたしました、報告書案を閲覧いただければと思ひます。

表紙を一枚めくっていただきますと、目次を掲載しております。

第1章では調査の枠組みとして、調査の目的、調査の内容、調査報告書の見方の三項目に分け、報告書に掲載することとしています。第2章では65歳以上で要介護認定を受けていない方、または要支援の認定を受けている方を対象とした介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果を掲載することとしており、回答者の状況について、日常生活について、地域とのつながり等について、健康等について、各種事業やサービス等について、の5項目に分けております。第三章では、要介護1から5の認定を受けている方を対象とした、在宅介護実態調査の結果を掲載することとしており、基本属性、調査対象者さまについて、在宅サービスについて、認知症に関する理解について、困っていることと相談体制について、福祉について、災害について、ケアマネジャーの満足度、高齢者福祉施策について、介護者の状況について、の9項目に分けております。第4章では、清瀬市内の介護保険事業者への調査結果を掲載することとしており、基本属性、事業者運営や市内のサービスの提供状況等について、臨床ケアや医療介護の連携等について、介護人材について、事業所運営上の課題予防、の5項目に分けております。そして最後に各調査の調査票を資料として掲載することとしています。

それでは、各章についてご説明させていただきます。まず第1章、調査の枠組みでございます。ページ番号では、1ページをご覧ください。まず1.調査の目的でございます。本調査は、「高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活が送れるよう、健康でいきいきと暮らしていけるまち」の実現を目指し、高齢者福祉及び介護保険サービスの一層の向上を図ることを目的に、令和6年度からはじまる「清瀬市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」を策定する際の基礎資料とするための、アンケート調査を実施したものでございます。

次に項目の2番、調査の概要でございます。調査対象者について令和4年10月1日を基準日とし、無作為抽出をしております。なお、抽出にあたっては同一世帯に二通以上の調査票が届かないように調整はさせていただいております。各調査の回収率でございますが、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では1,600名の送付に対し、1,149名の方にご回答いただき、71.8%の回収率となっております。次に、在宅介護実態調査では1,000名の送付に対し、523名の方にご回答いただき、52.3%の回収率となっております。次に介護保険事業所への調査では、53事業所への送付に対し、41件のご回答をいただき、回収率は77.4%となっております。三年前の調査の回収率は、まず介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では67.0%、在宅介護実態調査では44.5%、介護保険事業所への調

査では 76.0%でしたので、いずれの調査でも今回のほうが回収率があがっているという状況であります。

また調査期間としては、令和 4 年 11 月 27 日から 12 月 22 日までの 1 カ月弱としておりましたが、この提出期限を少し過ぎても有効回答として加えることといたしました。次に、調査方法でございますが、調査票対象者の方のご自宅や事業所へ送付をし、回答にあたっては郵送での返信か、ウェブ上での回答により行いました。回答方法による内訳といたしましては、ほとんどの方に郵送での返信により調査票をご提出いただいたという状況です。

次に項目の 3 番、調査報告書の見方でございます。まず回答者数について、図中のアルファベットの、小文字の n という文字につきましては、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率の母数を示しております。次に百分率についてです。百分率は、すべて小数点以下第 2 位を四捨五入した数値で示しておりますので、合計が 100%にならない場合がございます。また設問によっては、複数の選択肢を回答できるものもありますので、その回答率の合計は 100%を超える場合がございます。次に図表についてですが、報告書に掲載している図表の単位は、特にことわりのない場合につきましては、「%」で示しております。また中には集計値が 5%に満たないものもございますので、その場合は数値の表現を省略しているものもございます。次に、選択肢について、文章中の選択肢は「 」で表現し、合計値等は『 』で表現しております。また選択肢の語句が長い場合には、本文や図表中では省略した表現を用いる場合がございます。次に、クロス集計及び分析についてです。クロス集計の数値の単位は、上段は人数、下段は%です。また各設問の対象者全員の合計を「全体」と表記し、特徴的なものについては、性別・年齢等の属性や、他の設問に対する回答と、クロス集計分析を行っています。またクロス集計表では、集計の軸、縦軸では「無回答」などの掲載を省略しています。今回は例として 2 ページの中段に「お住まいの地区について教えてください」という設問の回答を年齢とのクロス集計表にして、示しております。またその他の説明としましては、クロス集計表の説明文中に集計軸の項目を示す際には、「《 》」で囲って示していることや、前回の調査と同じ質問がある場合には、回答の傾向を示すために経年比較を載せる場合があることを載せさせていただいております。

調査の枠組みについての説明は以上になります。

次に、各調査の結果について報告させていただきます。本日配布いたしました、アンケート調査報告書の概要版をご覧くださいと思います。

まず始めに、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査でございます。これからの説明では、略してニーズ調査と呼ばせていただきたいと思います。まず概要版の 1 ページでは、日常生活での身体を動かすことについて、「過去 1 年間に転んだ経験がありますか」という質問を今回の調査と前回の調査と比較しております。今回の調査結果について、全体では過去 1 年間に転んだことがない人が

69.7%となっておりますが、「あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか」の質問の回答別に見ますと、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答した方は50.4%、「何らかの介護を受けている」と回答した方は59.2%と、50%以上の方が過去1年間に1回以上転倒しているという結果となりました。

また、3年前に、第8期介護保険事業計画策定に向けたアンケートの結果と比較しますと、各割合では大きな変化は見られない、という結果となりました。次に、概要版の2ページをご覧ください。次に、「週に1回以上は外出していますか。」の質問について、「ほとんど外出しない」「週1回」と回答した方を閉じこもりのリスクありと判定しておりますが、今回の調査の全体では17.6%の方がリスクありとなっております。また、介護・介助の必要性別に見ますと、介護・介助は必要ないと回答した方では12.3%なのに対し、介護・介助は必要だが、受けていない方では38.7%、何らかの介護を受けている方では47.4%となっており、介護・介助を必要としている方のリスクが高くなっております。また、今回の調査と前回の調査を比較いたしますと、「介護・介助は必要だが、受けていない」方では10.8%、「何らかの介護を受けている」方では18.8%、リスクの割合が上昇しております。

次に、概要版の3ページをご覧ください。こちらは、「外出を控えていますか」の質問に「はい」と回答された方にその理由を伺うものでございます。グラフを見ますと、どの年代においても「新型コロナウイルスへの感染防止」が最も多く、次いで「足腰などの痛み」となっております。また、年代別に見ますと、「トイレの心配」を理由にされている方は、65～74歳では他の年代よりも少なくなっております。また、85歳以上では、「耳の障害（聞こえの問題など）」「交通手段がない」が、他の年代と比較して多くなっております。

次に、概要版の4ページをご覧ください。こちらは、日常生活の食べることについて、「主食・主菜・副菜をそろえた食事が1日2回以上ありますか」と伺うものとなっております。左側のグラフ、9期と書いてある今回の調査結果では、1人暮らしと、夫婦2人暮らしで配偶者が64歳以下の方では、全体の結果と比較して「いいえ」の割合が高くなっております。

また、右側のグラフ、8期と書いてある前期の調査と比較いたしますと、全体としては「はい」の割合が78.9%から80.8%に増加しておりますが、1人暮らしと夫婦2人暮らしで配偶者が64歳以下の方では「いいえ」の割合が増加する結果となっております。

次に、概要版の5ページをご覧ください。上段の問5(1)物忘れが多いと感じますか。の回答結果について、全体で「はい」と答えた方が42.8%、「いいえ」と答えた方が54.3%と、「いいえ」と答えた方が割合としては多い結果となっております。また、世帯構成別に見ますと、1人暮らしと夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の方は、全体と比較して物忘れが多いと感じていな

い人の割合が多く、特に夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）の方は全体と比較して 10.1%多くなっております。

次に下段の間 6 (2)、こちらはアンケート調査では地域とのつながり等の地域での活動についての質問で、地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいかを伺うものとなっております。こちらは、先日送付しました、報告書案の 31 ページも併せてごらんいただければと思います。31 ページにも詳細な表を載せていますが、「是非参加したい」と「参加してもよい」と回答した方を合わせて、参加意向として「参加してもよい」とまとめておりますが、今回の調査では 50.7%、人数としては 583 名の方が参加してもよいと回答しており、「参加したくない」の 37.7%、を 13%上回っています。また、前回の調査結果と比較いたしますと、「参加してもよい」の割合は 2.9%とわずかに減少しております。

続きまして、概要版の 6 ページをご覧ください。あなたとまわりの人の「たすけあい」について伺うもので、「あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人はいますか」、逆に「あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人はいますか」という質問の結果を、今回の結果と前回の結果をそれぞれ載せております。回答としては、心配事や愚痴を聞いてくれる人、聞いてあげる人ともに最も多かったのは配偶者で、次いで友人、兄弟姉妹・親戚・親・孫となっております。また、前回の結果と比較をしますと、「配偶者」「友人」と回答された方の割合が増加しております。

次に、概要版の 7 ページをご覧ください。上段では、認知症についての質問で、認知症についてどのようなことに関心がありますか。の回答を、今回の調査結果と前回の調査結果を比較するかたちで載せております。今回の調査結果を見ますと、「認知症の予防について」が 58.3%と最も多く、次いで「日常生活の注意点について」が 40.9%、「認知症の症状について」が 37.8%となっております。また、前回の調査結果と比較をしますと、どの項目でも今回の方が選択される割合が増加しており、認知症に対する関心が高まっていることがうかがえます。

次に、同じく概要版 7 ページの下段をご覧ください。こちらは介護保険・福祉制度、サービスについて伺うもので、保健福祉サービス等で、あなたが知っているものを教えてください。ということで、サービスの認知度の回答結果を載せております。最も認知度が高かったものが「住宅改修・設備改修費の助成」で 23.9%、次いで「自立支援日常生活用具の給付」が 13.6%、「配食サービス」が 12.9%となっております。なお、「すべて知らない」と回答された方が 54.7%と半数以上の方が回答しており、サービスの認知度が低い結果となっております。

次に、概要版の 8 ページの上段をご覧ください。こちらは同じく保健福祉サ

ービスについて、あなたが今後利用してみたいものを教えてくださいという、利用希望を伺うものとなっています。表を見ていただきますと、世帯類型と利用希望の上位3位までをクロス集計しております、縦軸が世帯類型、横軸が利用希望上位3位までで①から③まで記載しております。

全体では、最も多かったのが「住宅改修・設備改修費の助成」で23.1%、次いで「配食サービス」が21.2%、「すべて利用したくない」が20.9%となっております。世帯類型ごとに見ますと、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）と子との2世帯という、比較的若い方が世帯にいる方については、「すべて利用したくない」「住宅改修・設備改修費の助成」が多く選ばれております。また、1人暮らし世帯では、「配食サービス」「救急通報システム」が他の世帯類型よりも多く選択されております。

次に、同じく概要版の8ページ下段をご覧ください。「あなたが、介護が必要な状態となった場合、どのようにしたいと思えますか。」という質問に対する回答を、全体と、1人暮らしの方の回答を並べてグラフに示しております。全体では、「介護などのサービスを利用しながら、自宅で生活する」が49.0%と最も多く選ばれており、前回の調査でも47.1%の方が同様の傾向となっております。また、1人暮らしの方の回答は「介護などのサービスを利用しながら、自宅で生活する」が最も多く、全体と比較してもほぼ同じ割合となっておりますが、「施設に入所する」と回答された方が22.9%と、全体と比較して3.5%多い結果となっております。

ニーズ調査に関する結果の説明は以上です。

続きまして、在宅介護実態調査の結果について、ご説明いたします。

概要版の9ページをご覧ください。こちらは、在宅サービスについてうかがうもので、令和4年10月中に、住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険の在宅サービスを利用しましたか、という質問について、要介護度別及び今回と前回の調査結果を並べてグラフに示しております。

今回の調査結果では、在宅サービスの利用割合としては「要介護3」の認定を受けている方が最も多く79.7%、逆に「要介護5」の認定を受けている方が最も少なく58.8%となっております。

また、前回の調査結果と比較をいたしますと、「要介護4」の認定を受けている方は若干利用割合が減少しており、それ以外の介護度の方は利用割合が高くなっております。

次に、概要版の10ページ上段をご覧ください。こちらは、令和4年10月に介護保険の在宅サービスを利用していない方に対し、その理由を伺った結果を、今回の調査と前回の調査の結果を比較するかたちでグラフに示しております。グラフでは、下の、色の濃い方が今回の調査結果ですが、「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」と回答された方が40.3%と最も多く、次

いで「家族が介護するため必要ない」と回答された方が 20.8%となっております。

また、前回の調査と比較をいたしますと、「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が 6.6%、「家族が介護しているため必要ない」が 9.4%、それぞれ増加しております。逆に、「本人にサービス利用の希望がない」が 13.7%減少しております。

次に、同じく概要版 10 ページの下段をご覧ください。こちらは認知症に関する理解についてうかがうもので、「普段、認知症についてどのようなことに関心がありますか」という質問に 3 つまで選択していただいた結果を、今回と前回の調査結果を比較してグラフに示しております。今回の調査では、「認知症の予防について」関心がある方が 40.5%と最も多く、次いで「認知症の症状について」が 38.0%となっております。また、前回の調査と比較をしますと、「認知症の介護の仕方について」と「その他」以外で関心の割合が増加する結果となっております。

次に、概要版の 11 ページをご覧ください。こちらは、困っていることと相談体制についてうかがうもので、介護保険サービスに関して、清瀬市にどのようなことを望みますか、という質問の回答を、今回と前回の調査結果を並べてグラフに示しております。今回の調査結果では、「介護保険制度の情報をわかりやすく提供する」が 34.0%と最も多く、次いで「介護の家族負担を軽減する」が 32.7%となっております。また、前回の調査結果と比較すると、「介護保険制度の情報をわかりやすく提供する」が 3.9%、「医療処置が必要な高齢者が在宅で暮らし続けられる支援を充実する」が 3.8%、それぞれ増加しております。

次に、概要版の 12 ページ上段をご覧ください。こちらは、「現在、生活を営むうえで、困っていることや心配なことはありますか。」という質問を、回答者全体と、要介護 1・2 の認定を受けている方、要介護 3～5 の認定を受けている方に分けて、回答割合の多かった上位 3 つの項目を載せております。全体では、「健康（自分や家族が介護や医療を必要とすることなど）」が最も多く、介護度別に見ても同様の結果となっております。また、要介護 3～5 の認定を受けている方では、「生計（経済的に苦しい、または苦しくなることなど）」が 2 番目に多く選択されており、医療や介護の自己負担への不安がうかがえる結果となっております。

次に、同じく概要版 12 ページの下段をご覧ください。こちらは、高齢者福祉施策についてうかがうもので、「これからの高齢者福祉施策で、市に力を入れてほしいと思うものはどれですか」の質問に対し、5 つまで選択していただいた結果を、回答者全体と、要介護 1・2 の認定を受けている方、要介護 3～5 の認定を受けている方に分けて、回答割合の多かった上位 3 つの項目を載せております。回答者全体では、「家族の介護負担の軽減」が 38.4%で最も多く選

択されており、次いで「寝たきり、要介護の高齢者に対する支援」が32.5%、「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が29.3%となっております。また、介護度別に見ますと、要介護1・2の方では、上位から「家族の介護負担の軽減」、「健康管理（がん検診、予防接種など）」、「買い物や通院などの外出支援」となっております。要介護3～5の方では、上位から「寝たきり、要介護の高齢者に対する支援」、「家族の介護負担の軽減」、「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」となっており、「寝たきり、要介護の高齢者に対する支援」と回答された方の割合は46.7%、「家族の介護負担の軽減」と回答された方の割合は42.1%と、回答者全体での同選択肢よりも高い割合となっております。

次に、概要版の13ページをご覧ください。こちらは、介護者の状況についてうかがうもので、現在、主な介護者の方が行っている介護等の回答結果でございます。こちらは報告書案の99ページにも結果を載せておりますので、併せてご覧いただければと思います。主な介護者の方が行っている介護等の回答としては「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が82.1%と最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が76.1%、「食事の準備（調理等）」が73.1%となっております。

また、概要版13ページに示しているグラフですが、こちらは報告書案の101ページの上段、「今後も働きながら介護を続けていけそうですか。」の質問に対し、「やや難しい」、「かなり難しい」と回答された方で、どのような介護をされているのかを示したものとなっております。グラフの表題としては、「仕事との両立が難しいとしている方が実施している介護」としてまとめております。結果としては、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」と「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」と「食事の準備（調理等）」と「外出の付き添い、送迎等」が他の介護等と比較して多く選択されておりました。

次に、概要版の14ページをご覧ください。こちらは、「現在の生活を継続するにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、教えてください」という質問の回答結果を、回答者全体と、要介護1・2の認定を受けている方、要介護3～5の認定を受けている方に分けて、回答割合の多かった上位3つの項目を載せております。全体では、「外出の付き添い」が31.9%と最も多く、次いで「夜間の排泄」が31.2%、「認知症状への対応」が29.9%となっております。

介護度別に見ますと、要介護3～5の認定を受けている方の介護者では、「夜間の排泄」で45.2%、「日中の排泄」で34.1%と、全体と比較して、多く選択されている結果となっております。

在宅介護実態調査の結果説明は以上でございます。

つづきまして、介護保険事業所への調査結果をご説明いたします。概要版の15ページをご覧ください。上段の間7では、事業所運営や市内のサービス

の提供状況などについてうかがうもので、「事業者の立場から見て、清瀬市内で、市民ニーズに対してサービス供給量が特に不足している、または十分足りていると思うサービスはありますか」という質問の結果概要を記載しております。説明文では、不足しているサービスに特化して記載しておりますが、市民ニーズに対して不足していると思うサービスとしては「夜間対応型訪問介護」が39.0%と最も多く、次いで「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が31.7%、「訪問介護」が26.8%となっております。なお、前回の調査では、「夜間対応型訪問介護」が39.5%、次いで「訪問介護」が31.6%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が28.9%となっており、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の順位や、不足していると思っている割合が上がっております。

次に、同じく概要版の15ページ中段をご覧ください。問9介護サービスの質の向上を図るために最も必要だと思う取り組みはどれですかという質問の結果を、今回と前回の調査結果を並べてグラフに示しております。今回の調査結果では、「レベルや経験年数に応じた研修」が31.7%と最も多く、次いで「他事業所との情報交換」が24.4%、「テーマ別の研修」が22.0%となっております。また、前回の調査結果と比較しますと、「レベルや経験年数に応じた研修」と回答された事業所の割合が8%上がっております。また、その他と回答された事業所の意見としては、「ケアマネジャーの質の向上」、「各サービスのコンセプトの明確化と役割分担」が挙げられております。

次に、概要版の16ページをご覧ください。こちらは、自立支援・重度化防止の取組について、最も課題と思うことはどれですか。の回答結果を、今回の調査と前回の調査を並べてグラフにして示しております。今回の調査結果では、「介護サービス量を減らすことを利用者が望まない」が36.6%と最も多く、次いで「取組に対する事業所へのインセンティブが足りない」が34.1%、「利用者の意欲がない」が12.2%となっております。また、前回の調査結果と比較しますと、「取組に対する事業所へのインセンティブが足りない」の回答割合が20.9%増加しております。

次に、概要版の17ページをご覧ください。こちらは、事業所運営上の課題・要望についてうかがうもので、「事業所運営において、お困りのこと、課題となっていることはありますか」という質問に対する回答結果を、今回の調査結果の上位5項目を、今回と前回の調査結果を並べてグラフに示しております。今回の調査の回答では、「介護人材の確保」と「利益の確保」が困りごと、課題として最も多く63.4%、次いで「感染症対策」と「運営資金の確保」が39.0%、「利用者の開拓・確保」36.6%となっております。なお、前回の調査結果では、「介護人材の確保」が57.9%と最も多く、次いで「利用者の開拓・確保」が39.5%、「利益の確保」が34.2%となっております。「利益の確保」が前回の調査と比較して29.2%増加しており、大きな課題であることがわかる結果となっております。

介護保険事業所への調査結果の説明は以上でございます。

事務局からの説明については、以上になります。

**【委員長】**

これで調査全体の報告をしていただいたところでもあると思うのですが、皆さんのほうからニーズ調査でご質問、ご意見等がありますか。

**【委員】**

ご説明ありがとうございました。報告書7ページの要支援認定を受けている人のアンケートの、「あなたは要支援認定を受けていますか」について、要支援認定を受けている方への質問であると思っていたのですが、どのようなことなのか教えていただけますか。

**【事務局】**

ご質問ありがとうございます。こちらのニーズ調査の対象者ですが、要支援の認定を受けている方と認定を受けていない方も対象にしておりますので、今回の7ページ一番下(5)では要支援認定を受けている方と受けていない方がそれぞれご回答いただいているという状況でございます。

**【委員】**

要支援認定を受けている方は10%、1割しかいなかったということですね。

**【事務局】**

そうですね。今回ご回答いただいた方はそのようなパーセンテージになっております。

**【委員】**

わかりました。ありがとうございます。

**【委員】**

調査の結果を拝見して気づいたことですが、事前に配布された報告書で、43ページの「認知症に関する相談窓口を知っていますか」というものが中段にございます。75%強の方が、相談窓口を知らない、と回答しているんですね。一方で、47ページの「清瀬市には現在4か所の地域包括支援センターが設置されています。地域包括支援センターを知っていますか」という質問に対しては「利用している」及び「知っているが利用したことがない」が第9期の場合ですと、だいたい6割弱いらっしゃるわけですね。つまり地域包括支援センターというのはかなり認知症に関する相談窓口にもなっていると思うのですが、認知症に限定して聞くと「知らない」と4分の3の方がお答えになり、かといって、「地域包括支援センターを知っていますか」「知っていますよ」と回答しているところで、地域包括支援センターの役割というものが市民の方に十分認知されていないのではないかな、という感想を抱きました。

ぜひ市報に特集といいますか、こんな相談窓口がありますよ、という窓口のニーズも高いようですので、名前だけではなくて機能はこういうものですよ、

という周知をしていただければありがたいというように思いました。このあたりに少々齟齬を感じましたので、以上です。

**【委員長】**

ご意見以外の、質問でも構いませんので、よろしくお願いします。

**【委員】**

委員の意見にも関わることなのですが、実は私は清瀬市の地域包括支援センター運営協議会のほうの委員もさせていただいております。また仕事柄、在宅ケアの冊子とか本とか作っているのですが、地域包括支援センターの役割がとてもたくさんありまして、認知症だけではない、というところがあるように思います。ですから、例えば市報で包括支援センターが認知症の窓口であることを知らせるときは、地域包括支援センターの役割という特集でやるのではなく、認知症の特集をやっているところで、地域包括支援センターが一番の窓口ですよ、というようなPRをしないと、なかなか市民に伝わらないと思いました。

**【委員】**

質問のなかに「あなたは普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか」というものがあるが一つ答えることになっていますが、これは回答者の主観ということでしょうか。

**【事務局】**

ありがとうございます。そうですね、こちらの回答につきましては、ご本人に回答いただいておりますが、本人の主観というかたちでの回答となっております。とくに何らかのサービスを利用している・していないというところで区分けしているのではなく、介護サービス・予防サービス以外での何らかの支援や介護を受けている場合について受けている、というようなかたちで回答いただいております。

**【委員】**

何らかの介護・介助が必要であるが受けていない、と回答された層の方はどのような人ですか。予測や考えていることがあれば教えていただきたいです。

**【事務局】**

こちらにつきましては、例えば要介護認定で要支援1・2の認定を受けている方のなかでも、サービスを利用していらない方もおりますので、そういった方や、要介護認定ではなくても医師の方で何らかの診断を受けたけれど、とくにそれについて必要なサービス・支援を受けていない方が今回このような回答になっているかと思えます。

**【委員】**

ありがとうございます。

**【委員】**

報告書の自由記入の回答が何箇所かあると思えます。概要版にまとめるには

難しいかもしれませんが、いいことを言ってらっしゃる方もいるので、自由回答の概要も何らかのかたちで反映させていただきたいです。○×ではなく、文章で答えていただいていますので、もう少し重要視されてはいかがかな、というように考えます。

**【事務局】**

ありがとうございます。概要版は短時間で作成させていただいた、というところで自由意見まで載せる時間的な余裕がなく、申し訳ないのですが、調査の回答としていくつかの自由記載ではご意見いただいているところもありますので、こちらについてはもちろん本体である調査結果の報告書に載せさせていただく予定です。今回の概要版につきましては、委員会資料として作成したものでございまして、今のところこれ単独で公表する、ということは考えていないものでございますので、ご理解いただければと思います。

**【委員長】**

事前に送られてきているので、今日の概要版にとらわれず色々意見をいただければと思うのですが、いかがでしょうか。個人的には、報告書 49 ページ「以下の事業についてあなたが利用したことがあるものを教えてください」では「すべて利用したことがない」が圧倒的に多く、50 ページのところ「以下の介護事業等についてあなたが今後利用したいものを教えてください」もシルバー人材センターのパーセンテージが一番多いですけれども、逆に「すべて利用したくない」が 23.2%というところで、色々なものを準備していても、利用されていない高齢者の方が多いのかなという印象ですし、単身の乏しさも一方であるんでしょうし、今後どういう層がそういうところなのか見ればなと思います。一番気になるのは、一人暮らしの方がどうなっているのか、というところですね。もちろん年齢層でクロスをかけているものもいくつかあり、大事ななとは思いますが、85 歳以上の方、一人暮らしの方がどうなっているのか、この計画では色々な事業を計画しているところではあると思うのですが、「すべて利用したくない」という棒グラフが飛びぬけていると、気になると思います。

また高齢者の自立や生活支援を支えるための施策が 51 ページにありますね。「すべて知らない」「すべて利用したことがない」がすごく多いと思いました。

皆さんいかがでしょうか。

**【委員】**

今の課題が溜まりましたが、まず対象者の抽出方法が男女、年齢、地域が無作為で、アンケートを配布しているわけですね。回答者の割合をみて、85 歳以上が多かったりすると、年齢が上の方であれば関心がもてないのかな、など全体的に無作為抽出でアンケートを配布すると色々考えられる回答もあるかと思っています。今後どのように計画に結び付けて運んでいかれるのかは、わかりませんが、漠然とこれが問題というよりも、絞った進め方をしたほうがいいの

ではないかと思いました。

**【事務局】**

おっしゃるとおり漠然として課題を捉えるより、分析をして、委員長がおっしゃったように、一人暮らしの方はどういう傾向があるか、年齢層に応じてサービスを利用しているのか、利用希望があるのか、といった分析が必要であると感じております。せつかく第9期の計画を策定するにあたって、既存の事業をそのまま実施するというのではなく、真に必要なものをピックアップしていくつか選んでいかないといけないと感じております。そのあたりは今後の検討課題とさせていただきたいと思えます。

**【委員長】**

第3章の在宅介護実態調査のほうはどうでしょうか。要介護認定を受けている方の調査のほうですね。概要版もありますし、報告書の63ページ以降です。

**【委員】**

概要版13ページの見方をもう一度ご説明いただけますでしょうか。どのように見ればよいのか、わからなかったのです。問9(2)です。

**【事務局】**

ありがとうございます。こちらにつきまして、報告書101ページ上段と併せてご覧いただければと思います。報告書101ページ上段②「主な介護者の方は今後も働きながら介護を続けていけそうですか」という質問に対しまして、「続けていくのはかなり難しい」「続けていくのはやや難しい」と回答された方について、具体的にどのような介護をされているのか、こちらのグラフにして示させていただきます。数値のところなんですけれども、左側の色が濃いほうが「やや難しい」と回答された方、右側の色が少し薄いほうが「かなり難しい」と回答された方です。例えば「金銭面や生活面に必要な諸手続き」という一番上の結果を見ますと、「かなり難しい」と回答された方が「金銭面や生活面に必要な諸手続き」をされている方が最も多く、最も多い割合を100%と示させていただきます。数値としては81.8と100%になっておまして、「その他の家事」というところでは、「やや難しい」と回答された方が100.0というようになっています。「やや難しい」と回答された方で最も介護している項目で多かったのは「その他の家事」ということです。一番多かったところを100%に示させていただき、それを基準にして、それぞれ残りのパーセンテージを示させていただきます。

**【委員】**

ありがとうございます。報告書の101ページを見ると、全体が111名のなかでかつ「続けていくのはやや難しい」「続けていくのはかなり難しい」という方が1割くらい、9.9%なので、人数が少ないなかで割合を出しているのですが、パーセントの大きさの違いが、すごく大きいように見えているのですが、おそらく実際は1人とか2人程度の違いなので、両立が難しいとしている場合の

「問題はあるがなんとか続けていける」というのも「問題はある」けれども、なんとか続けている、ということなので、これはこれで支援が必要な方たちだと思うので、どのような介護が大変なのかということであれば、「やや難しい」「かなり難しい」という人だけでなく、「なんとか続けている」という人も含めて集計していただいたほうが、より市民のニーズが見えるのかなと思いました。ありがとうございました。

**【副委員長】**

ご説明いただきましてありがとうございました。概要版 12 ページ問 8 で課題であると感じた点がありますので、主観かもしれませんが、一応意見させていただきたいと思います。上位三項目のなかの全体では③位、要介護 3・4 のなかでも③位に「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」というのが出ております。これが何なのか考えてしまったんですけど、私は今特別養護老人ホームのところで管理をしてるんですけど、退所した方が出て、その次の方に入っていたらこうとしたときに、これまでですと名簿順の一番の方にご連絡すれば比較的スムーズに入れたケースが多かったんですね。ところが最近、一人目、二人目、三人目と、なかなか入る方が決まらないというのが特養の現実でございます。これは多分清瀬だけでなく、他の自治体も同じような傾向です。感覚的なものではなくて、一人の方が退所してから、一人の方が入れられるまでの期間を調査したのは明らかですから。ただ一方で、入れない方がいらっしゃることも特徴なんです。具体的に言いますと、要医療的な方々、例えばインスリンであるとか、人工透析であるとか、胃ろうであるとか、こういった条件をもっている方々や、認知症がおありになられて比較的行動が活発な方、このような方々が入所させていただけない状況になっております。そういった方々にとっては施設が不足している、という認識もっております。一方、事業者側からしますと、私は政策誘導だと思っておりますが、重点化ということで、要介護 4・5 の方を多く入れなさいよ、入れないと加算をつけませんよ、という制度になっています。したがって、施設側とすれば要介護 4・5 の方に入っていただきたい。しかし、実際に介護が大変なのは要介護 3 とか 1・2 の、例えば認知症がおありになられて、徘徊が激しい方とか、あるいは暴力になってしまう方とか、そういった方々が非常に大変なんです。そういう方々が、加算がつかないから順番として後になってしまう、ということがあって、どうしてもその方が入りにくくなっている、ということで、絶対的な量の不足ではなく質の不足なのではないかなと、感じている部分でございます。この結果を、単純に数が足りないという理解をするのではなくて、どのような理由で不足と認識されるのかということについて考えていただく必要があるのではないかと感じております。

**【委員長】**

施設に対するニーズという部分のお話が意見としてあるのかな、と思いま

す。一方で、報告書 65 ページを見ると現時点での施設等の入所・入居等の検討状況では、要介護 5 においても 62.7%の方は検討していないということもあり、なかなかニーズをどう考えるかが難しく、できる限り自宅でやりたいと思われている方たちがいる一方で、かなりいるということも重く考えないといけないと思いますし、要介護 5 であったとしてもそういう意見が多くあり、そうするとどのようなサービスが充実していくべきであるのか、ということを含め、この話と関連して、考えさせられるところがあります。いずれにしろ分布でみるとはっきりしていますが、在宅介護実態調査に協力してくださった方の基本属性では、要介護 5 の方が 51 人、また要介護 4・5 の方のパーセンテージが高い、というのも大きな話なのかなと思います。

#### 【委員】

今ご説明いただいた内容で、私が身近に聞いたのは、現時点で施設等への入居・入所の検討状況についてということですが、例えば今の段階で、金銭面で入れるのは特別養護老人ホームなんですね。そういう方が多いです。そのなかで 200 人待ちとかというと、最初から諦めている、検討から外れている、という方も非常に多いです。最初から諦めているので、入所を検討していない、という方が私の周りではかなり多いように思います。最初から考えていない、ということではなく、自分が入れる範囲内のところに入る、ということについて諦めている、という方もけっこういるのではないかと思います。

#### 【委員長】

さっきと同じようなことで気になったのは、83、84 ページ「すべて知らない」「すべて利用したことがない」のように、この場にいるとわからない、一般的な感覚でいうと知られていないことというのは、まだまだかなり多いのではないかと思います。要するにどんな情報であれば伝わりやすいのか、根本的に色々考えていかないと在宅介護をしている方のなかでも「知らない」と言われてしまうのは大きな課題であると思います。一方で、85 ページのところの「どこから情報を入手しますか」では、ケアマネが 54.7%と一番多かったりするというのを見ると、ケアマネの方を通す役割というのも大きいと思います。もちろん市の広報紙も 37.3%なので、高いかな、と思いますが、どうやってサービスや制度に関する情報を広げていくのかなということが印象として残りました。

#### 【委員】

広報ということになりますと、今委員長がおっしゃたように調査結果でも要支援 1・2 の方の情報の入手は市の広報がダントツなんですね、56 ページです。すべての世代においてダントツトップで、これが介護保険を利用されている方（85 ページ）になると二番目になってしまうんですが。一番ケアマネジャーさんが色々教えてくれるから 1 位になっていると思うのですが、市の広報もとても大切です。高齢者のことだけを載せるわけではないのですが、今市の広報紙

は確か中折りにして8ページでしたかね、紙の値段や印刷代も上がって、よくわかるんですけど、高齢者に関していえば、56ページにありますように、まだまだインターネットなどの利用が低いので、紙の媒体がとても大事だと思います。8ページの中折りの間に一枚ペラで紙を挟んで、高齢者のための情報のチラシのようなかたちにすれば保存しやすいと思います。保存するためのB4クリアファイルと一緒に配布しておいて、高齢者のお宅では真ん中の紙を取り出して情報として、保存するという方法です。一枚でしたらそれほど費用はかからないと思うので、市の広報のPRのやり方をもっと考えてもいいのではないかと思います。

**【委員】**

86ページ(4)なんですけど、介護保険サービスの充実と負担感で「ほどほどの介護保険料である程度の介護サービスを受けられればよい」が多かったので、これから計画を立てていくなかで、必要となる個人個人の自助や自分の努力をどのように広報したり、啓蒙したり、ということが大切になってくるのかなと思いました。

**【委員】**

68ページで「在宅の人が利用できる以下の介護保険サービスについて利用したい、利用し続けたいサービスはありますか」ということで色々ありますが、私も在宅医療をやっておりまして、今どんどん増えている独居老人のQOLを高く維持できるかというのが一番の問題で、独居の方は夜に何かが起こってきたときに一番の不安で、ヘルパーさん、訪問介護が緊急できてくれるようなサービス事業所があればいいな、と常々思っています。パーセンテージは10%程度で、夜間対応型訪問介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護の数が少なく見えますが、ここを見逃してはいけないと思います。清瀬市の一番弱いところだと思い、清瀬で夜間対応型のヘルパーさんなどが定期巡回しながら、例えば30分でも緊急介護ができるようになり、トイレまで行けなくて、便が出てしまって、どうしようという人のことをちゃんと見てあげられると、在宅の介護がすごく進むのではないかと常々思っております。

**【事務局】**

ご意見ありがとうございます。まさに今おっしゃられたことについては、介護保険事業所の調査でも清瀬市に不足しているサービスとしてあげられておりますので、やはり課題として捉えないといけないなど、考えております。具体的な今後の施策について、今期計画の中に定期巡回・随時対応型訪問介護看護につきましては1事業所整備する予定でございまして、令和5年度中に事業者の公募を行う予定でありますので、市として整備を進めていきたいと思っております。

**【委員】**

高齢者施策の全体なんですけれども、それぞれ身体の具合・状態、家族の状

況、それぞれの問題を抱えていて、ニーズがそれぞれちがいます。しかし、その一つひとつに答えていただければと感じています。どんな制度ができてでも隙間は必ずあり、こぼれ落ちてしまう問題がありますが、どうしても制度が使えないんだ、と言われたときの穴埋めができる方法を考えてほしいなと思います。それと、実際は使いたいけれども、経済的な負担がかかってサービスが申し込めないんだ、という人も多いんですね。みんなに必要なサービスが気軽に受けられるような状況になってほしいな、という思いがあります。

**【委員】**

夫の両親を10年近く介護していたんですけれども、2008年ぐらいから母の失禁に気づいて、それからもしかしたら認知が出てきたんじゃないかなということで両親の介護が始まりました。その時点では主人と義兄さんは何も気づかなくて、いろんな人に話を聞くと「紙パンツ渡してみたら」と言われて始まりました。そのときから介護保険とケアマネさんとのつながりが他の人はわかっていなくて、近所に認知が進んで徘徊も出てきているような方がいて、奥さんに聞いたら「お金かかるでしょう」と言われました。介護保険と介護度のつながりがわかっていないようで、地域包括を紹介しましたが、「お父さんも落ち着いているし、施設とかデイサービスに行くと犬の散歩ができないから今はちょっと待っていて」と言われ、それきり声はかかっていますが、制度や介護保険のことをもっと市から色々教えていただけると、このような方が手から溢れなくて済むのにな、と思っています。よろしくお願いします。

**【委員】**

101 ページで、「介護者の方が不安に感じている介護等について教えてください」という項目になります。こちらのほうの数値のほうを見ますと、「夜間の排泄」それから「外出の付き添い、対応」と専門職なり制度のなかで対応している部分が高いのと、下のほうの「食事の準備」「その他の家事」というところで専門職でない支援の不安があり、介護者が通いで介護されているのか同居で介護されているのかわかりかねるのですが、公的な支援がある一方で、前のページの99 ページで介護者が行っている内容を見ますと、圧倒的に「家事」が高いという数字が出ております。専門職だけでなく、総合事業であったり、民間の生活支援サービスが行っている部分もありますけれども、制度の基盤整理とともに地域のなかでの生活支援に視点が置かれるといいのかな、と感じました。

**【委員】**

人材のところの、112 ページからになるのですが、「介護職員に対してのスキルアップ等」というところで、事業所としても人材不足で色々研修等もやっているかと思うのですが、カスタマーハラスメントですとか、利用者側から職員に対してのハラスメントというところも増えてきているところが現状としてありますし、人材確保として、介護をしてくれるヘルパーさんなり介護福祉士

の方とかケアマネジャーもそうですが、清瀬市内としては人材不足がありますし、個々の事業所で人材確保が難しくなっているのが現場の肌感としてあります。市一体となってというわけではないのですが、何か市としても一緒に今後の清瀬市の介護・福祉というところで、今後何か対策を立てていかないといけないのではないかと感じております。

**【委員長】**

第4章のほうに入りましたね。それではこのまま3つ目の調査になりますが、事業所調査が107ページ以降にあり、概要版も併せて今ご意見ありました、介護事業所の調査でお気づきのことやご質問・ご意見どんどん出していただければと思います。よろしくお願ひします。

**【事務局】**

先ほどご意見いただきました介護人材の件につきまして、これについては以前から市でも重大な課題であると捉えておりました、様々な施策をとっているところなんですけれども、なかなか改善というところまでは難しいのかな、というところなんです。個別的には地域包括支援センターのほうで対応困難な方につきましては、市の包括も一緒に対応して行っていますが、例えば介護人材のことで申しますと、令和5年に予定している事業なのですが、「シニアの力循環プロジェクト」というかたちで、シルバー人材センターの会員さんを活用するかたちで施設や事業所に、資格はもってなくても隙間時間といいますか、一日中フルではなく、日中空いている時間で支援に入っていて、実際に資格が必要でない直接の身体介助をしないような業務を担っていただくようなことを考えております。これについてはボランティアではなく、あくまでシルバー人材センターからの派遣ということで、お仕事としてやっていただくということで、制度設計をしているところですので、そういったことを活用しながら具体策を練って介護人材の確保というところについては市としてもきちんと検討していきたいと考えております。

**【委員】**

先ほど夜間対応についてのご意見があり、これから考えているというところでしたが、それにプラス一人暮らしの方、とくに体調を崩された方が夜中に非常に不安が強いです。どこが悪いというわけではないのですが、何となく不安で、という方のお電話が非常に多いです。そのようなときに対応していただける夜中の窓口、ここに電話すればお話を聞いてもらえるよ、というものがあたらいいのかなと思います。

**【委員】**

ケアマネジャーをやっております。本日お話を聞かせていただきながら、第1章、2章、3章、4章を通じて、市のほうもそうですし、介護保険制度もそうなんですけれども、今やれることというものは随分やられているのかなという気はしております。ただ、それに関しまして、一人暮らしであったり、老々介

護であったりするために、その情報がお年寄りまで行っていないのですごく狭い知識のなかで、自分たちで何とかしようという感覚で生活をされている方がいらっしやって、いざ大変になったときには、たくさんサービスを使わなければいけない状況になってしまっていることが多いのかなと思います。第2章、第3章もそうですが、情報が入っていないから無関心、といった状況ができていくのかな、と思います。お年寄りの孤立化が進んでいるようなかんじがいたします。それに関しましては、手を打たなければいけないのかな、という話です。ケアマネがご依頼を受けて入った際に、もう少し早く携われれば、もう少し軽く在宅で生活できたのではないか、というケースも多々ございます。お年寄りが助けを求められる、情報をすぐに取りれる、という状況は市として考えていかなければならないのかな、と感じております。先ほどペーパーで、というお話もありましたが、それも含めて、どうしても人に迷惑を掛けてはいけないんだ、という気持ちからなかなか周りにお話ができないという状況も多々ありますので、なんとか払拭して、助けを求められる、自分から外に出ていくことができる、自分の趣味嗜好なんかも続けられる、というようなかたちの情報発信が大事なのかな、という感じがいたします。

#### 【事務局】

ご意見いただきましてありがとうございます。先ほどからご意見いただいているとおおり、周知も必要であると感じております。また包括のほうで行っております、アウトリーチという事業がございまして、ここ何年かで介護認定を受けていない、介護サービスを利用していない、医療を受けていない、健診を受けていない、関係機関とつながっていない、という限定的にはなってしまうのですが、そういった方たちでかつご高齢の一人暮らしであったり、ご夫婦であったりをピックアップして、まずは簡単なアンケート調査を入れたお手紙を送ることからスタートしているんですけれども、それをきっかけに返信状況によっては直接包括の職員が訪問させていただいたりしております。これが全体に、となると現状ある程度条件を絞らないといけないところではあるんですけれども、そのような取組なども活用しながら情報が届いていない方に早期介入したほうが、その方たちの QOL の維持にもつながることもあると思いますので、そういった取組を進めていきたいと思っております。

#### 【委員長】

事業所のところで色々大変な状況は数字からも明らかかと思うのですが、人材確保について色々な手を打たれていますが、悩まれているという現状もはっきりしていると思うので、どんな手が打てるかなかなか難しいと思いますが、切り口としては125ページの「人材育成のための時間がない」が一番パーセンテージが高くなっていたり、時間がなかつたり余裕がないという状況であれば、市は何ができるか、というところで介護保険の事業所に携わる人材育成でどういうサポートやバックアップができるのか、この事業ではサービス、質を

入れていかなければならないのかな、と思っています。

あと外国人材の活用は、123 ページのところ「関心はあるが、具体的な検討はない」という感じで、活用済の事業所もあればそうではないところもあったりするので、その橋渡しの、バックアップができるか、といった、東京都や国に期待していても大して進まないの、市独自でできることを考えることも必要ではないかと思います。

改めて、人材確保は色々な話があると思いました。

**【委員】**

今回の調査で、DXについての質問が多くあって、国が指示した項目でもあると思うのですが、この調査の結果を受けて清瀬市のほうで今後検討できそうなことは何かあるのでしょうか。自由記述ではDXに関係してきそうな事務処理がすごく大変だ、というような部分があったり、直接的ではないですけども、人材確保であったりとか、余裕の現場のなかにつながっていくといいなと思ったんですけども、DX関係で介護事業者に対しての支援で検討しているものはありますか。

**【事務局】**

DXについては、具体的に市内の事業者はどういった支援ができるのか、今のところできる施策というものはないので、今回の調査の結果を見ますとDXについてはかなり関心が高いということもありますので、事業者によってはどんどん進めていこうというところもあるかと思うのですが、なかには小規模な事業者であったり、ご高齢の方が多事業所ですと、なかなかシステムに馴染んでいかないこともあるかと思うので、まずはもう少し具体的なニーズを踏まえた上で、DXの支援については検討していきたいと考えております。

**【委員長】**

全体を通してのご質問や感想などいかがでしょうか。

**【委員】**

報告書 3 ページの下の棒グラフなんですけど、このアンケートは無作為で抽出して対象を選んでいるんですけど、回答者を見ると 65～69 歳が少なく、70 でガンと上がって、あとはダダダと下がっていくんですね。無作為で選ぶと、人口の多い 65～69 歳が一番多くなると思うのですが、65～69 歳は回答してくれなかった人のほうが多い、実際は 65～69 歳の回答を何倍かしてみないと正しい分布は見られないのではないのでしょうか。その点いかがでしょうか。

**【事務局】**

ご意見ありがとうございます。清瀬市の高齢者の人口分布の特徴だと思うのですが、かなり後期高齢者の方が増えているという状況がございまして、5 歳刻みの年齢の高齢者数なんですけれども、あまり 65 歳から 69 歳の方がそんなに多くないといえますか、70 代の方もかなり多いです。だいたい同数かそれ以

上の人数というところで、ちなみに少し前ですが第8期計画を策定したときの5歳刻みの年齢の分布なんですけれども、65歳から69歳の方が4,297名で、70歳から74歳の方が5,010名ということですので、そちらの方が清瀬市のなかで多いです。そういったこともあり、調査票結果の3ページも記載したとおり、70歳代の方からの回答が多いと考えております。ただ、委員がおっしゃられたとおり、65歳から69歳の方がもしかしたら「自分はまだ介護とか支援とか必要ないから回答しない」という方も一定数いらっしゃるかもしれないので、そのような方たちについてどう介入していく、といいますか介護予防として自分はまだ大丈夫だけれども、早いうちから健康づくりとかそういったところに挑んでいただくという意味では60歳代の方の意見は非常に貴重かと思えます。実際に60歳代の方がどのような回答したか、というのはデータがありますので、そのようなところの分析をすすめてみたいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

#### 【委員】

委員もおっしゃられたように65歳から69歳の方の意見は本当に大切だな、と思います。僕、1990年代の保健婦さんの月刊誌を編集していたものですから、予防という観点からとくに重要視しているんですけども、事業所調査のなかで、概要版でいうと16ページに「自立支援・重度化防止の取組について、最も課題と思うことはどれですか」というところがあるのですが、全体で「介護サービス料を減らすことを利用者が望まない」というところが36.6%、このような方たちをなるべく増やさないことが清瀬市のこれからの健康を維持していくために大切なのではないかと思います。色々な事情があるかと思うのですが、介護サービス料を減らすことを望まない利用者はどういう方なのかという私見ですが、例えばニーズ調査のほうで、報告書の1ページにあるように回収率が71.8%というところで、まず71.8%の回収率がすごいと思いました。こんなにたくさんの方が回答してくれているなんてびっくりだったんですが、この71.8%は健康を気にしていたり、自分の意識が高い方の回答だと思います。とくに問題なのは、ここで回答されなかった3割弱の方たちで、3割弱の方たちにどうやってアプローチして自分の健康意識であったりを高めておかないと、その方たちが年を取って要介護になったときに結局サービスが入ることに頼ってしまって自立支援に、という意識が生まれないのではないのでしょうか。ですから、清瀬市と国から言われて取り組んでおり、これ以上できないよ、とおっしゃるかもしれないのですが、30%の方たちにどうやって関わっていくか、清瀬市独自の事業ができれば良いと思いました。以上です。

#### 【委員】

今の委員の意見に賛成なんですけれども、予防という観点であるとサービスであるとか市でやっている事業に繋がっていかない人にまだ元気で居続けていただくということがすごく大事で、色々な事業が市役所に何があります、と

ということだけではなくて、例えばスポーツジムに行くと毎日、一日中いるのではないかと思うくらい高齢者の方がいらしたりとか、図書館でも午前中来てお昼食べて、また午後來る、といったような方たちもいらして、情報提供になったときに市報もそうですし、公共機関にチラシを置く、ということだけではなくて、民間であったり、スポーツジムのブースでの情報提供であったりとか、相談場所をつくる、とか民間の場などを活用しながらやっていくことができる。と今まで出会えていない高齢者に会えるというか、そういうところに繋がっていくのではないかと思います。

#### 【委員】

どのようなことをしていくと、健康が続いていくのかな、という内容のネタを探るのにあたりまして、行政で色々な活動をされていてサロン活動や私も関わらせていただいている10の筋トレとか、自主グループがあるんですけども、いい活動をたくさんされているのが、市の方が大変だと思いますが、そのようなものグループに属している方々は認定にはだいぶ引っかけられないとか、効果が目に見える形で情報を提供できると、サービスを知らなくても自主グループはあそこでやっていて元気みたいよ、という口コミみたいなものが入っていけると、情報の伝え方もひとつのネタの作り方も考えていく必要があるのかなと思います。

#### 【委員長】

このあとも次の会議までの間、まだ設定の話が出ていないですが、お気づきのことがあれば、このあとでもぜひご連絡をいただいて、ご意見をいただければと思います。

個人的に同じ話になってしまうかもしれませんが、一人暮らしの方のことをどう考えるかすごく重要になってくるのではないかと思います。5ページのところですと、要するに要支援・要介護が必要ではない状態の方の生活のなかで、今回協力していただいた方は25.4%ですが、66ページのところの介護が必要な方の調査でみると、単身世帯が34.6%という、一人暮らしで要介護状態になっている方の比率がズバっとでてきて、世帯構成は確実に高齢者のみの世帯が増えていくということは当然ですし、平均余命は更に延びていくので、そこに単身の方が増えていくと、今までの介護保険サービスとの発想を少し変えて、一人暮らしで自分でも気がつかないうちにだんだん認知症になっていたり、徐々に活動が低下していたり、接点をもっていない地域の方々や趣味活動もそこまで広くない方が要介護状態に入ってくるとなったときにどうしたらいいのか、利用しない、知らない、という方が多くいて、確実にそこから出てくる要介護状態問題は、認定を受けているから出ている数字で、認定は受けていないけれども、という方はもっと多いのではないかと思います。そのため、今までとはちがう発想ももたないと、知らないし、関心がない、という層から要介護状態が出たらどうするか、というところは考えていかなければいけ

	<p>ないのかな、という気はします。</p> <p>先ほど委員より出た、夜間対応型訪問介護のお話のように、もうすでになっていてさらに起きていく問題も当然考えないといけないのですが、今まで単身前提の話というのが進んでいなかったところではあるので、プラスアルファで必要なのではないかと非常に思いました。</p> <p>あと、難しい話ではありますが、清瀬はそこまで広くないとはいえ、地域差がある話はないだろうか、ということが分析で考えていったほうがいいのかと思います。最初のところにあるように、細かくここまで分けるのがいいのか、包括の圏域のように分けるのいいのかは分かりませんが、できれば地域があるような問題が生じてないかどうか、ということもなかなか区市町村がやる計画は区や市まるごと全部の話になってしまうところがあるので、細かく分けて立てている話はよっぽど大きな市でもないと、そんなにありません。考慮すべきことがあれば、このデータからでもご検討いただければと、クロスをかけて明らかに差が出るものがあれば検討の余地があるのではないかと考えております。</p> <p>ぜひ一週間くらいの間で気が付いたことをどんどんどご連絡いただければ、それを整理していただけるのではないかと思います。今日のことを踏まえて、お気づきのことがあればよろしく願いいたします。</p> <p>マイクを事務局に戻します。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>委員長、委員の皆さまありがとうございました。本日いただいたご意見は、報告書の都合でさほど時間はとれないのですが、このあと意見がございましたら、ご連絡いただければと思います。完成しました報告書につきましては、改めて各委員にお届けさせていただきたいと思っております。</p>
<p>次第</p> <p>4. 事務局からの連絡事項</p>	<p><b>【事務局】</b></p> <p>それでは次に、次第の4番、事務局からの連絡事項でございます。</p> <p>まず次回の委員会の開催につきましては、現状細かな日程が決まっておりません。申し訳ございません。また改めて通知をさせていただきたいと思っております。可能な限り早めにお知らせできるようにいたしますので、できる限りご参加いただけるようお願い申し上げます。</p> <p>また本日の議事録につきましては、報告書完成の発送に併せて発送させていただきたいと思っております。届きましたら、ご確認いただけますようお願いいたします。こちらも確認させていただきまして、修正があればかけさせていただいて、市のHPにアップさせていただきますので、ご了承ください。</p> <p><b>【委員】</b></p> <p>お願いなのですが、先日議事録をお送りいただいたのですが、ここには「委員」としか書いていないので、自分で言うておいて言いつばなしも恐縮なのですが、どれを自分が発言したのかというのが少しあいまいに感じます。恐れ入</p>

	<p>りますが、各委員に議事録をお送りいただくときには委員の名前をお書きいただいて、そして公表するときには、固有名詞を取るという段取りにさせていただくと、責任をもって自分の発言をすることができると思います。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>配慮が足りず、申し訳ございません。今後はそのような形で対応させていただきたいと思います。</p>
<p>次第 5. 閉会</p>	<p><b>【事務局】</b></p> <p>それでは本日予定していた議事はすべて終了いたしました。これにて、第3回評価策定委員会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>